

日本語の漢字の部首、示す編「ネ」と衣編「ネ」
の類纂研究
(形態論と意味論)



アルド クリスタント

1142008

マラナタ・キリスト教大学

文学部・日本文学科

バンドン

2014

1. 序論

各国はそれぞれの文字を持ち、日本にはひらがなとかたかなと漢字が三つある。漢字は中国から借用文字である。二つ（以上）の合わせた漢字は新しい意味を持ち、それは複合語と言う。複合語は合わせ方が色々あるの為、読み方も言葉の合わせ方によって違う。和語と和語の言葉を合わせれば訓読みだけで読み、また漢語と漢語の言葉を合わせるならば音読みで読むことになる。日本語だけでなく、外来語と日本語（和語か漢語）の合わせる言葉もある。合わせる漢字で出来た言葉は二つの意味を持つことが可能で、明示的意味と暗示的意味が出来る。

さらに、漢字には七つの部首があり、その部首は編、旁、冠、脚、垂、繞、と構である。編の部首に少し似ている形の部首があり、それは示編（ㇶ）と衣編（ㇷ）である。日本語の初級学習者のほとんどはこの似ている部首に良く迷うので、その二つの部首は本当に同じか、関係はないかを説明する。

この研究の目的は：

- 1) 示編（ㇶ）と衣編（ㇷ）との漢字の成り立ちを説明する。
- 2) 示編（ㇶ）あるいは衣編（ㇷ）を含む漢字と含まない漢字によって生成される複合語にむいて後者の意味が変化するかを説明する。
- 3) 示編（ㇶ）と衣編（ㇷ）との関係を説明する。

2. 本論

ここでは集めたデータを分析し、日本語の漢字にある示編（ㇿ）と衣編（ㇾ）を使い、その部首に掛ける漢字の生成を説明する。

1) 祖母

祖	<i>Kunyomi</i>	<i>Onyomi</i>
Leluhur	-	SO

(Nagasawa, 1990: 901)

母	<i>Kunyomi</i>	<i>Onyomi</i>
Ibu	<i>Haha</i>	BO

(Nagasawa, 1990: 986)

‘祖’の字は且とㇿとの合わせた漢字である。何代も重なる昔の人たちで、神棚に祭られる先祖を表す字である（藤堂、1999：724）。‘祖’の漢字は形成で作られ、音読みは‘且’の字の音読みから出来ている。‘祖’の意味は先人で、‘母’の意味はおかあさんで、祖母とは自分の両親のお母さんという意味である。その言葉の意味には、示編の神の意味は明示的でない、‘祖’の漢字で神棚に祭られる先祖が書き表される。‘祖’も‘母’も両方音読みで読むので、その言葉は漢語の複合語である。

2) 褐色

褐	<i>Kunyomi</i>	<i>Onyomi</i>
Coklat Tua	-	<i>KATSU</i>

(Nagasawa, 1990: 950)

色	<i>Kunyomi</i>	<i>Onyomi</i>
Warna	<i>Iro</i>	<i>SHOKU</i>

(Nagasawa, 1990: 303)

‘褐’の字は曷とネとの合わせた漢字である。ひからびた草や木の繊維で作った衣服で、またその衣服の色から、ひからびた感じのするこげ茶色のことである（藤堂、1999：827）。「褐」の漢字は形成で作られ、音読みは‘曷’の字の音読みから出来ている。‘褐’の意味はこげ茶色で、‘色’の意味はいろで、褐色とはこげ茶色の意味である。その言葉の意味には、衣編の着る物とか布の意味は明示的でない、‘褐’の漢字でひからびた草や木で作った衣服の元色のことが書き表される。‘褐’も‘色’も両方音読みで読むので、その言葉も漢語の複合語である。

示編と衣編は全く違い、意味かその部首の成り立ちかた見ても全然関係がない。祈藤堂明保は示す編は“神をまつる祭だんをえがいたもの。「示の部」の字は、神や祭りに関係がある。”（藤堂、1999：723）と説明している。示編の漢字の例えは‘神’で、意味はかみさまである。‘祈’も示編の漢字で、意味は祭壇でかみさま

に願うことで、この二つの漢字から示編の意味は神や祭壇に関係があることが分かる。「衣の部」の字は、着物や布に関係がある”（藤堂、1999：821）と説明している。衣編の漢字の例えは‘襟’で、意味は首のまわりを取巻く衣服の部分の名称である。‘袴’も衣編の漢字で、意味は和服の一つ、腰から下まで着る物で、この二つの漢字から衣編の意味は着物や布に関係があることが分かる。「ネ」の字は‘示’の漢字からの略体で、「ネ」の字は‘衣’の漢字の略体である。

3. 結論

- 1) 示す編と衣編の漢字は形成で作られ、その合わせる字は音読みの読み方を借りることだけでなく、その字も意味をさらに強めて表すことが出来るように使う。
- 2) 示す編と衣編の漢字が独立で立てばその部首による意味を持っているが、その部首に含まない漢字と合わせれば、意味を強めてことが出来る。
- 3) 示す編と衣編との部首は、意味も成り立ちも全然関係がない。

DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN.....	i
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS.....	ii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....	iii
KATA PENGANTAR.....	iv
DAFTAR ISI.....	vii
BAB 1 PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	11
1.3 Tujuan Penelitian.....	11
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	12
1.5 Organisasi Penulisan.....	13
BAB 2 KAJIAN TEORI.....	15
2.1 Morfologi.....	14
2.1.1 Kata Majemuk.....	18
2.2 Semantik.....	19
2.3 <i>Kanji</i>	21
2.4 <i>Bushu</i>	23
2.5 <i>Bushu Shimesuhen</i>	25

2.6 Bushu Koromohen.....	27
BAB 3 ANALISIS.....	29
3.1 Kanji Berbushu Shimesuhen.....	30
3.1.1 Kanji yang Bermakna Ketuhanan.....	30
3.1.2 Kanji yang Tidak Bermakna Ketuhanan.....	41
3.2 Kanji Berbushu Koromohen.....	50
3.2.1 Kanji yang Bermakna Pakaian.....	50
3.2.2 Kanji yang Tidak Bermakna Pakaian.....	58
BAB 4 SIMPULAN.....	69
DAFTAR PUSTAKA.....	71
LAMPIRAN.....	viii
SINOPSIS.....	xxii
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	xxvi